



自民党

府議会報告

vol. 63 2月定例会

平成31年度当初予算及び平成30年度2月補正予算(14か月予算)の概要

総額 9,040億200万円 平成31年度当初予算 8,897億8,700万円

平成30年度2月補正予算 142億1,500万円

子育て環境日本一への挑戦

◆子育てに優しい職場づくり事業費	1億3,200万円
◆仕事と育児両立体験企業等導入事業費	1,300万円
◆周産期等子育て医療体制強化費	3億2,300万円
◆発達障害者支援体制整備事業費	1億1,300万円
◆京都子育て支援医療助成費	22億600万円
◆陽子線治療府民助成事業費	1,600万円
◆児童虐待対応体制・連携強化事業費	5,400万円
◆不登校児童生徒支援拠点整備事業費	1,500万円
◆府立学校スマートスクール推進事業費	1億1,000万円
◆新設特別支援学校建設費	21億900万円

京都力活かした文化・スポーツ・観光振興

◆国際アート市場形成事業費	1億3,900万円
◆宇治茶ブランド世界発信事業費	1,200万円
◆京都スタジアム整備費	81億2,200万円
◆「京都観光交流圏」形成・拡大事業費	5億9,900万円

平成31年度当初予算案及び平成30年度2月補正予算案については植田喜裕議員が賛成討論を行いました。

京の産業の新展開

①京都経済センターを核とした京都経済百年の計
◆次世代人材育成・産業創造事業費 1億2,100万円
◆中小企業事業継続・承継支援強化事業費 4,000万円
②農林水産業の活力強化
◆スマート農林水産業加速事業費 2億1,200万円

暮らしの安心・安全の向上

◆きようど健康長寿・データヘルス推進事業費 6,900万円
◆警察本部庁舎建設費 89億9,300万円
◆防災・減災、安心・安全基盤の整備 794億円規模

未来を拓くまちづくり

◆京都舞鶴物流基盤重点整備事業費 1億6,500万円
◆新総合計画等策定費 2,300万円

平成31年度当初予算案及び平成30年度2月補正予算案については植田喜裕議員が賛成討論を行いました。

府議会広報番組

放映予定 (KBS京都)

放送日 3月24日(日)

午前10時30分~11時

再放送 3月28日(木)

午前2時35分~3時05分

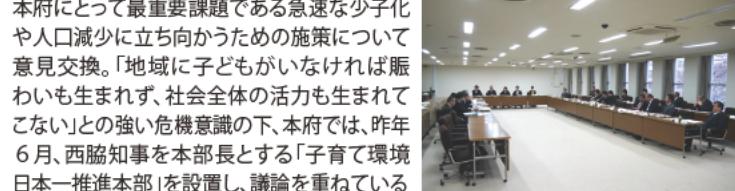
勉強会・意見交換会

■本府の流域下水道事業にかかる意見交換会



国の財政制度等審議会における「汚水施設の改築は原則として使用料で賄うべき」との趣旨の提言を受けて、平成30年度政府予算では、未普及の解消と雨水対策に国庫補助が重点配分されたところであり、本府流域下水道事業によっても多大なる影響があることから、今後の展望と対応策について意見交換

■少子化対策・人口減少対策にかかる意見交換会



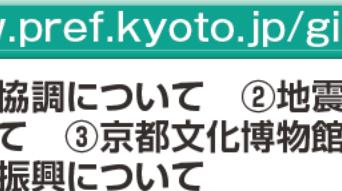
本府にとって最重要課題である急速な少子化や人口減少に立ち向かうための施策について意見交換。地域に子どもがいなければ厳しいもの生まれず、社会全体の活力も生まれてこないとの強い危機意識の下、本府では、昨年6月、西脇知事が本部長とする「子育て環境日本一推進本部」を設置し、議論を重ねている

■新たなる総合計画に関する意見交換会



京都府政の最上位計画となる新たなる総合計画について意見交換。概ね20年後の2040年に実現したい本府の姿や、本府の現状と課題を踏まえた基本施策の方向性をめぐり活発に議論を行う。昨年4月に西脇知事が就任してから初めて策定されるものであり、現在、府民意見交換会等を重ねる中で議論を深めている

■教科書採択についての勉強会



京都府政の最上位計画となる新たなる総合計画について意見交換。概ね20年後の2040年に実現したい本府の姿や、本府の現状と課題を踏まえた基本施策の方向性をめぐり活発に議論を行う。昨年4月に西脇知事が就任してから初めて策定されるものであり、現在、府民意見交換会等を重ねる中で議論を深めている

「府議会cafe京都」(第5回)

今回は府民生活・厚生常任委員会が取り上げられ、中川貴由委員長と片山誠治副委員長が委員会の活動を紹介します。また、地域活動に携わる府内大学生と広報広聴会議の園崎弘道座長と藤山裕紀子委員のほか議員との座談会の模様が紹介されます。



自民党議員団は、京都の和装文化振興の一助となるよう議場における着物の着用を全議員、知事をはじめ府の幹部にも呼びかけ、2月12日と13日の2日間、「きもの議会」を開催いたしました。

自民党が提出し、可決された意見書

この意見書は、衆参両議院長・総理大臣・所管大臣に提出します

■下水道施設の改築に係る国庫補助の継続と予算の確保を求める意見書

「京都府宇治茶普及促進条例」が全会一致で可決・成立

京都府議会政策調整会議(渡辺邦子座長、四方源太郎委員ほか委員3名)では、本年度、宇治茶にかかる新条例の制定に向け、関係団体の方々との意見交換やパブリックコメントを実施し、今定例会で「宇治茶が愛飲され、心が潤される京都づくり」を推進するための「京都府宇治茶普及促進条例」を議員提案により全会一致で可決・成立させました。これを受けて、本条例の定める施策の推進に関する要請書を村田正治議長から西脇知事に提出しました。

2月定例会での質問項目の一部抜粋です。※京都府議会のHP(<http://www.pref.kyoto.jp/gikai/index.html>)で録画中継をご覧ることができます。



「子育て環境日本一」、「京都経済センター」、「働き方改革と中小企業」及び「向日町駅東口整備事業」について

○「子育て環境日本一への挑戦」には、京都府の各部局が横断的に取り組むべき。雇用の受け皿として新産業の創出とともに、京都で学ぶ若者を引きつける魅力のあるスタートアップへの支援強化が重要。
○「京都経済センター」を拠点に、オール京都で戦略的な産業振興施策を推進することになるが、新たに設立された「一般社団法人京都知恵産業創造の森」と既存の各産業支援機関との役割とワンストップ体制の明確化が必要。
○労働基準法の一部が改正・施行により、「働き方改革」の実行が待たないしなったが、中小・零細企業のための丁寧な説明と支援が必要。
○「JR向日町駅東口整備プロジェクト」は公共事業が民間活力を引き出す地方創生の好事例であり、プロジェクト成功に向けて継続的な更なる取組が必要。



①向日町競輪場の今後の方向性は? ②府市強調の観光戦略を! ③乙訓に災害備蓄倉庫を配備すべき!

①向日町競輪場の包括委託は、黒字経営及びBMXのコース新設やパンク走行体験会など新しい取組をされる等、一定の成果が出ている。知事の今後の方向性を問う。
②ほぼ京都市内の一部に集中して滞在される観光客をいかに周辺府域へ誘客するか?その対策と戦略が重要。府市共同で実施されている京の七夕事業や花灯路推進事業などを、府域の自治体と連携した体制で進めるべき。
③現在、乙訓地域に府の備蓄倉庫は未整備である。効率的な災害備蓄の配備のために、乙訓地域の公共的な既存建物の有効利活用も含め、設置すべき!



①災害に強い森づくりと風倒木対策 ②桂川嵐山改修と霞堤の早急の締切り ③豪雨時の縦貫道通行止めの早期解除

①復旧の目途のたたない風倒木は二次災害の恐れがあり、新年度で災害防止森林整備事業を創設し災害に強い森づくりを行う。
2. 嵐山左岸の可動式止水壁による溢水対策は来年度に行う。
(一の井堰の改修については国の来年度予算の国土強じん化分に組み入れられるよう国に強く要請し、早急の実施を要望する)
3. 京都府警察として京都環遊道の通行止めは必要ではあるが、府民生活に多大の影響を及ぼすと認識し、出来るだけ早く解除出来る方法を道路管理者と協議、区間に限った段階的解除も今後行う



①平成31年度当初予算案と府政運営、 ②地域包括ケアの体制整備③先進医療の充実④都市計画、等について問う!

①新しい御代を迎えるに今回自ら指揮を執った当初予算編成の背景に何を謀り、どのような府政運営していくのか? 激動の時代に入った現在、世の流れを素早く的確につかんで臨機応变な府政推進を望む。
②地域包括ケアはセカンドステージに移行するが、ここまでどこまでの体制が出来たのか? 何が足りないのか? 京都式と銃打つにはどのような医療・介護・福祉の一体的状態であり、府民の安心や満足の最大化を図るのかを絶えず追求して充実する事を求む。ケアマネの育成確保も重要。
③転移性のガンに対する有効治療器のBNCT早期導入実現を! 又、府立医大をガンゲノム医療拠点病院に整備促進を求む。
④広い京都府域の各地域の特性を活かし、長所を伸ばす施策を展開し、京都府の活力を盛り上げて行ってもらうよう求む。



①府市協調について ②地震防災対策について ③京都文化博物館及び映像文化の振興について

①林田府政以降、トップ会議が毎年開催され、府市協調の実績を着実に積み重ねてきたが、時代の変化などにより、新たな課題や厳しい財政状況が続くと考えられる。これまでの府市協調の成果、今後の取組について伺いました。
②本府の地震対策は「第二次京都府戦略的地震防災推進プラン」に沿って進捗していると聞かが、来年度で計画期間が満了するから次期計画の策定に当たり、どのような視点で取り組むのか伺いました。
③京都文化博物館は貴重な建造物であるが、改正文化財保護法では、「地盤資源や観光資源として活用すべきである」とある。今後の活用方法、並びに「日本の映画発祥の地」と言われる京都の貴重な映像関係資料を次世代に継承する必要性について、いかがお考えか伺いました。



西脇知事が掲げる「子育て環境日本一」の実現に向けて、少子化問題への見解と今後の対策・取組を問う!

○少子化対策について 「子育て環境日本一」への出発点として少子化対策は喫緊の課題であり、結婚・出産・子育てに対する支援、不妊治療を受ける方が安心して受診できるように更なる支援を。
○商店街の振興について 活性化を取り組もうとする商店街に対して「商店街創生センター」による更なる支援を。
○視覚障害者対応信号機の設置促進について 視覚障害者・高齢者等にとって、横断の判断が難しい交差点もある中、安全を一層確保するために手元で判断できる信号機設置を進めていくべき。



府民スポーツ施設の整備・充実を! 北部産業創造センターでのICT教育 中小企業の大規模被災へ制度創設を!

①京都市内や南部では子どもや一般市民が利用するスポーツ施設が多く、確保に苦労しておられる。南部で土地がないのなら、北部に府が施設を作り、高速道路を使って南部の方々に利用しても良いのではないか? 学校施設や警察署の武道場をもっと開放すべき。
②綾部市の府北部産業創造センターをICT教育の拠点に!
③9月議会の代表質問で災害で大きな被害を受けた中小企業を支援する共済制度の拡充等、新制度の創設を! と要望。この質問を受けて、西脇知事には国に制度の創設を要望していただきました。



新しい総合計画に描かれる2040年頃の京都府の姿を実現するために、逆算していつまでに何をするかの進捗管理が必要!

①二之湯: 西脇知事は「文化」「大学の集積」等の京都の強みにこだわって2040年の将来構想を描きたいとしているが、実現のために長期にわたる進捗管理が不可欠だ。どういった工夫をするのか? また、「子育て環境日本一」「観光総合戦略」における、目標となる具体的な指標は? 西脇知事: 新総合計画は、2040年の「将来構想」と概ね4年間の「基本計画」で構成する。前者では、人口予測や世界経済の潮流、文化や大学集積といった京都の強みを踏まえ、将来像を理念的に描きたい。後者では、子育て、産業、文化等の3つの戦略を設定し、20年後の将来像も示し進捗管理に努める。子育て分野は、夏までに戦略を策定し、観光分野は、「府域観光消費額」や「府域観光客数」等、府域に着目した目標値を設定する。



<h4